

課題名 設計競技会に参加する1
「共生函」

指導教員 門馬 進

研究の動機 私は、2年間建築を勉強してきた中で、自分で家をデザインし、設計することに一番興味を持った。そこで、建築の集大成の研究として、コンペに参加することにした。

参加コンペ名 第25回日本工業大学建築設計競技会

課題 「五感に響く『いえ』」

主催 日本工業大学

審査員 若松均 小川次郎 勝木祐仁

提出期限 2011年8月31日

コンセプト 私たちは家を拠点として生活している。一日活動をして、家で休み、また次の日に活動するということを繰り返す。家は一日の疲れを癒すための空間。私にとって癒される空間とは、自然を家に取り入れ、自然を五感で感じる家。そのような空間として、2.1m角の立方体の家を提案する。できるだけ小さい空間にしたほうが、五感で感じやすいと考えた。

この2.1m角の立方体は組み立て式で、移動可能である。屋根、壁、床にはそれぞれ複数の種類があり、それを組み合わせることで、様々なパターンの空間を作り出すことが出来る。作り出した空間を、住宅の内外に配置することで、自然を五感で感じられる。設置場所と家の空間には、それぞれ自然を感じやすい工夫がされている。

屋根、壁、床の材料として、トタン屋根、網代天井、ガラス、サビ鉄、障子、竹、畳、マットを提案する。設置場所として、庭の木の下、リビング、寝室、屋上を提案する。壁が4枚ある内の1枚にはにじり口が設けてあり、人はそこから中に入ることが出来る。

感想 自然を取り入れることが決まっても、どのような家にするのか、案が出てこなかった。自分で家を提案することは大変だった。しかし、すごく達成感のある研究だから、コンペに参加出来て、良かったと思う。

共生函

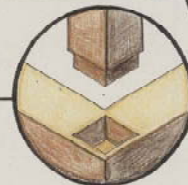
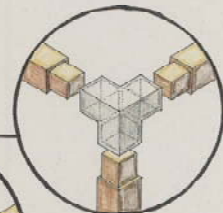
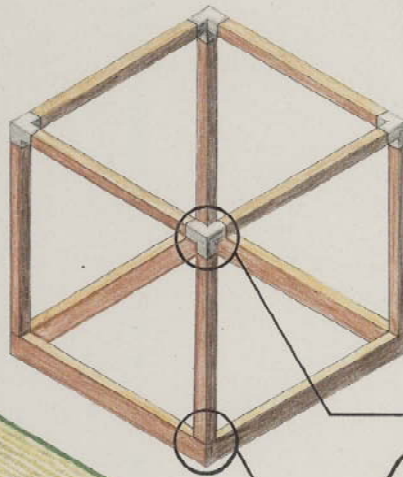
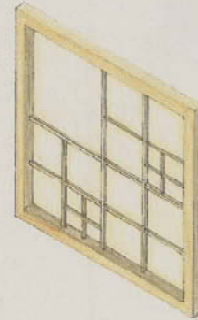
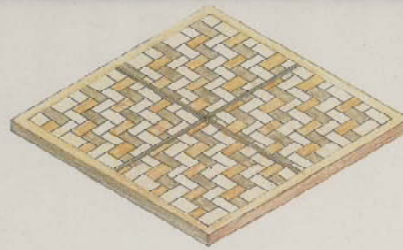
私達は家を拠点として生活をしている。一日活動をして、家で休み、また次の日に活動をする・・・ということを繰り返す。

家は一日の疲れを癒すための空間。私にとって癒される空間とは、自然を家に取り入れ、自然を五感で感じる空間。

そのような空間として、2.1m角の立方体の家を提案する。

この2.1m角の立方体の家は組み立て式で、移動可能である。柱、天井、壁、床など全てが持ち運びが可能で、住宅の内外に配置をし、様々なパターン空間を作り出す。立方体の設置場所と作り出す空間には、その場その場の自然を、五感で感じることができる工夫がされている。都会ではなかなか感じられない自然の癒しを、この函の中では感じさせてくれる。

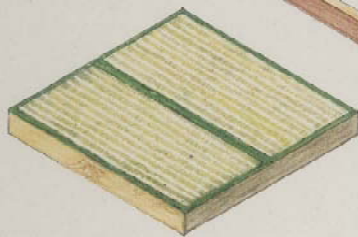
住宅と共生をし、五感で自然を感じる、立方体の装置、それがこの共生函である。



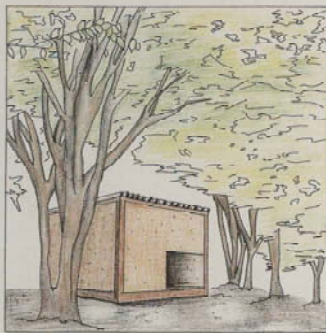
柱と天井の接合には、木材を敷き差し込む設計。三方角から木材を差し込めるようになっている。

S=1/20

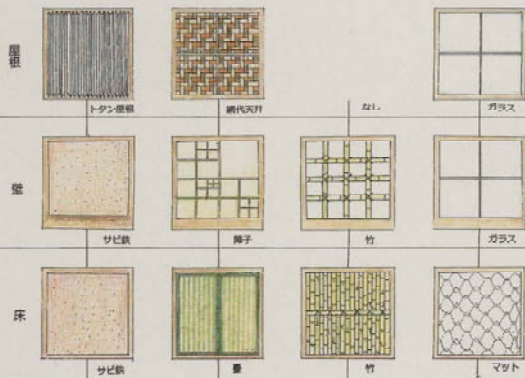
下の土台と柱の接合には、木材を上から差し込む設計。



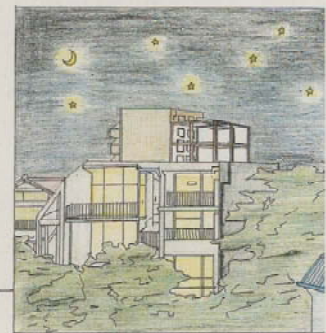
差し込みだけの設計なので、持ち運びがやすく、組み立てやすい。



庭の木の下の【眺見】トタン屋根×サビ鉄×サビ鉄
外に置くことで、風の揺れは、音響を立方体の中へ響かせる。雨の日は、木々の揺れる音や、風の音を聴きながら過ごすことができる。



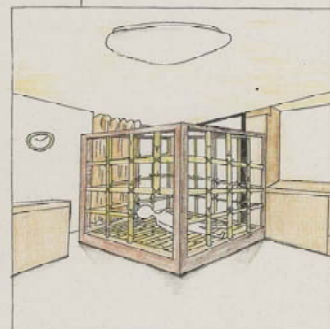
S=1/50



屋上【眺見】ガラス×ガラス×マット
マットに置かれることで、空を眺めることで大空を眺める。目とマット、ガラスの組み合わせで、夜を過ごすことができる。



リビング【眺見】【眺見】銅板天井×障子×畳
リビングでは、オープンな場所の小さな空間ができる。ここで仕事をすることで、お家の寄りこみ、菜園の管理も、多人が楽しむことができる。



寝室【眺見】(なし)×竹×竹
寝室に置くことで、立方体は竹のベッドに変化する。畳、床を竹で統一することで、風に竹の揺れを感じることもできる。